

国際性豊かな人材を育成

白鷹中の校是でもあり、校歌にもある「目を世界に、心ふるさとくをテーマに、心の豊かさと国際感覚を養うとともに、明確な自己表現力を培い、国際性豊かな人材を育成することを目的とし、白鷹中学校と県立荒砥高校に通う生徒を留学生としてオーストラリア・ケアンズに派遣する「青少年国際交流事業」。前回令和元年度に実施の後、コロナ禍により実施することができず、今年度は4年ぶり6回目の実施となりました。



私は英語が好きで、もっと好きになれるように、今回の事業に参加しました。英会話はあまり得意ではなかったのですが、現地の方が言葉をくみ取ってくれたり、自分の言葉が相手に伝わったときはとてもうれしかったです。自分に自信がついたし、前よりもさらに英語が好きになりました。これからも英語をがんばりたいです。今回の事業に参加させていただきありがとうございました。



手塚 ^{みゆ}心結 (白鷹中3年)

私が今回の研修で強く感じたことは、英語はコミュニケーションツールであるということです。お互い話したいことがあると夢中で単語を並べて伝えようとする場面が何度もあり、言語は道具なのだと感じ、帰国後は英語への向き合い方が変わりました。このような貴重な経験をする機会を与えてくださった皆さんに感謝し、この経験を将来生かしていきたいと思います。



丸山 ^{たけし}剛 (白鷹中3年)

私が今回オーストラリア研修を通して学んだことは、挑戦することの大切さです。オーストラリアでは、自分の英語が完璧に伝わる機会は多くありませんでした。しかし、私は文法や発音は重要だと思いますが、そこにこだわりすぎず、それ以前にコミュニケーションツールということを忘れず、何度も話しかけたり、少しでも話を続け、コミュニケーションをとったりすることが国を越え大切だと感じました。



渡邊 ^{たから}宝 (白鷹中3年)

私が今回のオーストラリア研修を通して学んだことは、人の温かさです。現地の学校に訪問させていただいた時、「今日はよろしく！」と挨拶してくれたり、白鷹町に帰って来た時、近所の方や家族に「おかえりなさい」と声をかけて貰ったりして、とても安心したことを覚えています。私も、「ここにいたい」と思える温かい環境を作っていける人になっていきたいです。



紺野 ^{ゆうあ}友愛 (白鷹中3年)

今までの英語の学習は、時間をかけて日本語を英語に直し、それを読み書きする学習でした。しかし、現地では実際に日常会話をしたため、日本語で考えた内容を、頭の中で即座に英語に直して発言することがとても難しかったです。その中で自分の英語が通じた時はとても嬉しく、英語がおもしろいと思える瞬間でした。そして、英語を勉強しにまた海外研修に行きたいと思いました。



菅原 ^{りあ}理杏 (白鷹中3年)

オーストラリアの人たちはお互いを尊敬し合っているように感じました。夫婦内で感謝を忘れなかったり、友達同士で褒め合ったりしていたからです。

また、今回の研修を通してもっと英語を勉強したいと思いました。ネイティブの英語を聞き取ることや気持ちを伝えることは難しいけれど、英語力を磨いてまた海外に行きたいです。



後藤 ^{まゆ}真優 (白鷹中3年)

令和5年度 白鷹町青少年国際交流事業報告

目を世界に、

心ふるさと



*Cairns
in Australia*

私が研修で学んだことは、あたり前ですが日本とオーストラリアの違いです。オーストラリアに行き発見することができた違いは人間性や生活様式の違い、動植物の違いなどです。この違いは知識としては身に付いていましたが、実際に見る方がよく理解ができ、記憶に残りました。この経験をいかして今後は色々な違いを発見して、それを身に付けて、また新たな発見をしたいです。



磯村 ^{ほのか}穂果 (荒砥高1年)

大きな不安の1つでもあった言語の違い。それを感じさせないほどのオーストラリア人の温かさに驚きました。言語以外にも、文化、食、日常生活の中での価値観の違いなど、多くの場面で刺激を受けました。その刺激から少しずつでも人として成長し、1人の町民として自分には何が出来るのかを考えながら、生活していきたいです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



佐藤 ^{ゆうた}優太 (荒砥高3年)

私は、ただひたすら混乱していました。ホームステイ先では、自分が覚えている英単語を組み合わせてがんばったけれど、あまり伝わりませんでした。今回の経験を得て、どれだけ英語が大切か学ぶことができました。将来海外などに行かないからといって英語を諦めるのはもったいないと思いました。せめて日常生活でも使える簡単なものだけでも覚えるべきだと思いました。オーストラリアで学んだことを自分の将来に生かし、白鷹町に貢献していきたいです。



川田 ^{ひろむ}大夢 (荒砥高1年)

学校訪問の際、バディが狭い廊下や階段があれば先を譲ってくれたり、重い扉を押さえてくれたりしました。このような小さな親切をさりげなくできてしまう学生の姿に改めて、普段の生活でこういう気遣いをするのが、当たり前ではなくなってきていたなと思いました。今回の研修は、私にとってこれまでで一番の思い出になりましたし、進路への大きな道標になりました。



遠藤 ^{みつき}美月 (白鷹中3年)

私が今回の研修でとても良かったと感じたことはオーストラリアの人についてです。研修に行く前は、オーストラリアの人に悪い偏見を持っていました。しかし、実際は街中での気軽な挨拶があったり、笑顔で話しかけてくれたりしてくれて、優しく接してくれる人がたくさんいました。研修を通して、見て体験することはとても大切だと分かりました。



佐藤 ^{さくら}咲愛 (白鷹中3年)

今回の研修では、町の風景、自然、人など、あらゆるものが今まで見てきたものとは違っていました。時差は1時間しかないのに、日本とは文化も常識も、人の心の中までもが新しい発見になり、これからの人生の貴重な材料となりました。しかし、そんな全く違った場所においても人を尊ぶ気持ちは同じで、他人を優先した行動をできることは、あたり前に思えてとても素晴らしいことだと改めて感じました。



佐藤 ^{かずたか}和貴 (白鷹中3年)